

報恩講とは

宗祖 親鸞聖人の命日（十一月二十八日）を機縁にお念仏の教えをいただく同朋がおつとめする法会です。京都の本山（東本願寺）をはじめ、各地域のお寺やそれぞれの家庭、聞法の仲間等、有縁の集まりで毎年大切に営まれています。ぜひともにお勤めいたしましょう。

名古屋別院（東別院）の報恩講は毎年十二月十三日～十八日にお勤めされます。

き き よ う し き

帰敬式（おかみそり）のご案内

帰敬式とは 仏（仏様）・法（教え）・僧（ともに教えをよむ）の三聖（さんせい）さんせいに帰依（きい）する浄土真宗の宗祖 親鸞聖人が生きられた本願念仏（ほんがんねんぶつ）ほんがんねんぶつ 南無阿弥陀仏（なむあみだぶつ）の教えをいただき、生涯を通して自身を明らかにしていく「真宗門徒」としての人生を歩み出すことを誓う儀式です。

授戒後には仏教の正しい教えを「法名」ほつみやう（釋）しやく〇〇が授けられます。釋（しやく）は、お釈迦様の「釈」とあり、私たちに本願念仏の教えを勧めたいというお釈迦様の慈悲（あわれみ）と「な」のかけあひです。授戒後には仏教の正しい教えを「法名」ほつみやう（釋）しやく〇〇が授けられます。釋（しやく）は、お釈迦様の「釈」とあり、私たちに本願念仏の教えを勧めたいというお釈迦様の慈悲（あわれみ）と「な」のかけあひです。

法名（ほつみやう）は、なにかのしからず、なにかのたより、イメージをもたねるかまじりませんが、本来は生前にいたくものです。仏教は様々なよきこと、喜びや苦悩を抱えながら生きるしかない私たちの现实生活のただなかで開かれる教えでもあり、私自身の姿を照らす鏡（かがみ）となる教えです。その教えに依りながら我が身の事業を自覚し、教えに生きる人として歩むことが、法名（ほつみやう）が「法名」です。

ぜひ名古屋別院の報恩講（毎年十一月十三日～十八日動修）の機会に帰敬式を受けたいです。